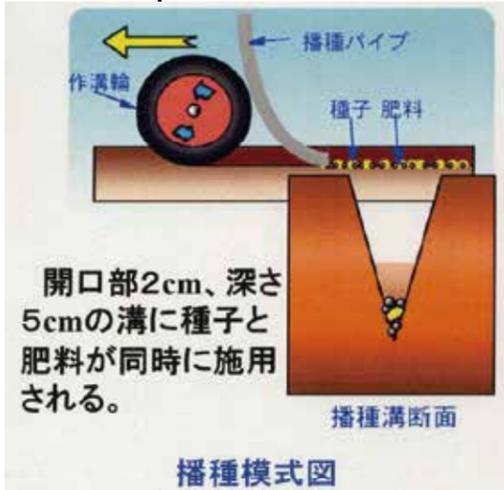


JA 能美 令和5年度 V溝乾田直播栽培暦（コシヒカリ）

能美小松宮農
推進協議会

作業名	生育期	時期	使用資材(10a当たり)	作業の目的・留意点																								
秋～冬の水利用、乾田期の除草剤散布作業が効率的にできるよう団地化に努める																												
有機物の還元		9～10月	稲わら、籾殻、大豆還元	前作物収穫後の残さは燃やさない。																								
土づくり肥料の散布		10～11月	パワフル大地 60kg	基肥は窒素成分のみのため、土づくり肥料は必ず散布する。																								
耕起・畦塗り		10～12月		残さのすき込み・碎土による代かき水の漏水防止、入水後の保水性向上。																								
冬期代かき		12～2月		ほ場の整地、保水性の向上、雑草抑制、播種精度向上。 ・浅水代かきとし、代かき水は強制排水せず、自然落水する。 ・残さが吹き寄せた場所は、田面が乾きにくくなるため取り除く。 ・暗渠は5月下旬の入水まで開放状態にしておく																								
4月上旬までに、ほ場表面にヒビ割れができ、足が全く沈まず固くしまった状態が理想																												
溝切り				・溝は排水不良箇所へ播種方向へ直交する方向に切り、必ず額縁排水溝や水止尻につなげる。																								
種子消毒	播種前	3～4月	キヒゲンR-2フロアブル 原液130ml/乾籾6.5kg	種子の腐敗防止、鳥害忌避 ・浸種、催芽は行わない																								
播種機調整 施肥・播種		4月上～下旬	BBV溝直播一発くん (右表参照)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>地力区分</th> <th>播種量(kg)</th> <th>施肥量(kg)</th> <th>N</th> <th>P</th> <th>K</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>普通地力田</td> <td>6.5</td> <td>20</td> <td>8</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>低地力田</td> <td>6.5</td> <td>25</td> <td>10</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>高地力田(大豆跡)</td> <td>5.5</td> <td>15</td> <td>6</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	地力区分	播種量(kg)	施肥量(kg)	N	P	K	普通地力田	6.5	20	8	—	—	低地力田	6.5	25	10	—	—	高地力田(大豆跡)	5.5	15	6	—	—
地力区分	播種量(kg)	施肥量(kg)	N	P	K																							
普通地力田	6.5	20	8	—	—																							
低地力田	6.5	25	10	—	—																							
高地力田(大豆跡)	5.5	15	6	—	—																							
播種は4月以降、ほ場が乾いた状態で行う																												
<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 20px;"> <p>目標 540kg/10a</p> <ul style="list-style-type: none"> ・苗立 100～150本/m² ・穂数 400本/m² ・籾数 71粒/本 ・m²あたり籾数 28,400粒/m² ・千粒重 22.5g ・登熟歩合 85% </div> <div style="text-align: center;">  <p>開口部2cm、深さ5cmの溝に種子と肥料が同時に施用される。</p> <p>播種機断面 播種模式図</p> </div> </div>																												
通水	播種後			播種後に晴天が続く場合は、水を通し発芽を促進させる。 ・雑草の発芽も揃い、除草剤の効果が高まる。																								
除草剤散布 (1回目)	出芽直前	4月下旬	ラウンドアップマックスロード 薬500ml/水100L	乗用管理機を使用し、飛散防止のため泡噴口を用いる。 ・出芽直前に散布するのが理想だが、ほ場周辺に移植水田がある場合は、安全のため田植え開始前に作業を終える。																								
播種後14日後頃																												
	出芽期	4月末～5月上旬		目標苗立数: 100～150本/m ² (20～30本/m) 最低必要数: 10本/m																								
除草剤散布 (2回目)	稲2～3葉期	5月中～下旬	クリンチャーバスME液剤 薬1,000ml/水100L ハードパンチDF 薬30g/水100L (希釈時に3分間は攪拌しない)	乗用管理機を使用し、霧噴口を用いる。 ・晴天日に散布する。 散布後3日間は入水しない。 ・ノビエ4.5葉期までに散布する(収穫60日前まで)。																								
1回目除草剤散布の20日後頃																												
			ノミニー液剤 薬50～100ml/水100L	イボクサの多いほ場は、ノミニー液剤も散布する。																								
入水	稲2～3葉期	5月下旬		3回目除草剤散布予定の2～3日前から入水し、それ以降は 収穫直前まで水をきらさない。(中干し不要)																								
除草剤散布 (3回目)	稲3～4葉期	5月下旬	ベンケイ1キロ粒剤 1kg バッチリLX ジャンボ 400g	湛水状態で散布し、散布後7日間は3～5cmの水深を保つ。 ・入水後、水が落ち着くのを待ってから除草剤を散布する。 ・ノビエ2.5葉期までに散布する(収穫90日前)。																								
2回目除草剤散布の5～7日後頃																												
随時防除		6月下旬	オリゼメート1キロ粒剤 1kg	湛水状態で散布し、散布後7日間は3～5cmの水深を保つ。(葉いもち病予防)																								
無人ヘリ防除		7月下旬～8月上旬	2回																									
	出穂期	8月上旬～中旬		耕土が硬く根の伸長が少ないため、田面を乾かすと干ばつ被害を受けて収量・品質低下の原因となるので、収穫2日前まで湛水状態とする。地耐力が大きいので、収穫作業は容易。																								
落水		収穫2日前																										
収穫	収穫期	9月中～下旬		・クサネムは収穫前に必ず抜き取る。																								

